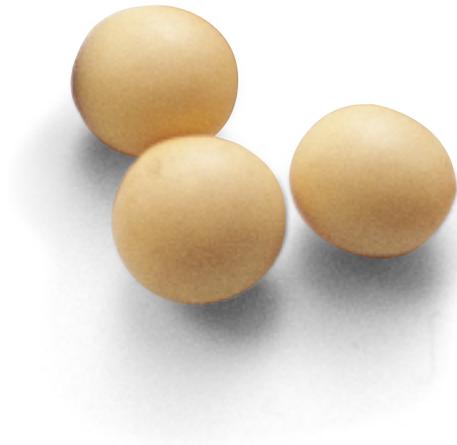


ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告書

2004



会社概要

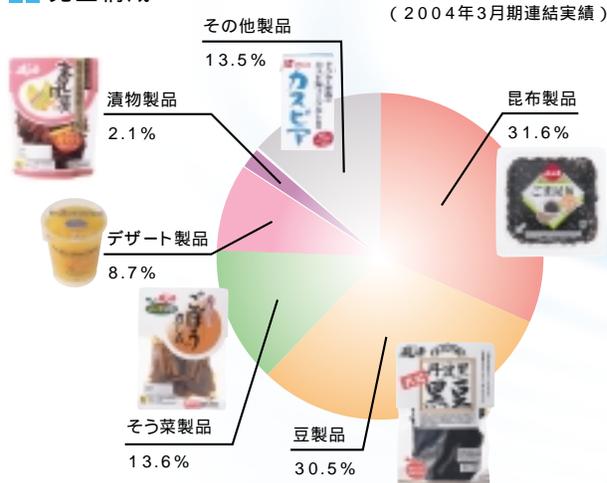
Company overview

会社名 フジッコ株式会社
代表取締役社長 福井 正一
本社所在地 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
本社電話番号 078-303-5911(代)
創業 1960年11月7日
資本金 65億6,653万円(2004年3月31日現在)
従業員数 2,242名(フジッコグループ全従業員)
売上高 連結:476億円(2004年3月期)
 単独:445億円(2004年3月期)
事業内容 昆布製品、豆製品、そう菜製品およびデザート製品等を主体とした食品加工業
事業所 本社：兵庫県神戸市
 東京FFセンター：東京都文京区
営業所：札幌、仙台、宇都宮、水戸、新潟、埼玉、東京、京葉、多摩、神奈川、静岡、名古屋、金沢、京滋、西宮、阪南、北大阪、神戸、広島、高松、福岡
物流センター：兵庫1、埼玉1
工場：兵庫2、埼玉1、千葉1、神奈川1
関係会社 フジコン食品(株)、フジッコワイナリー(株)、味富士(株)、フジッコフーズ(株)、(有)菜彩、青島富吉高食品有限公司

目次

会社概要	1
ごあいさつ	2
環境基本方針	3
環境目的・目標	4
環境マネジメントシステム	5
環境教育	7
地域貢献活動	8
製造工程における環境負荷の概要	9
環境目標の達成状況	10
環境負荷の低減に向けた取り組み	14
環境汚染物質の管理	15
環境保全に関する取り組みの歴史	17
2004年度の目標と行動計画	18

売上構成



対象範囲

この「環境報告書」は、フジッコ株式会社の3工場(西宮(現鳴尾生産事業部製造第三課)・和田山・関東)2生産事業部(鳴尾・東京)、本社部門、および国内関係会社の生産部門(フジコン食品(株)フジッコワイナリー(株)・フジッコフーズ(株))の実績および取り組みをもとに編集しております。

対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日

この「環境報告書」は、フジッコ(株)環境管理委員会で編集いたしました。

昨今、企業の社会的責任が強く求められております。

当社グループにおきましては、企業理念「お客さまとともに 新しい食文化を拓く 健康創造企業を目指します」の実現に一步一步近づき、予防栄養学の研究を進め、一人でも多くの人の健康に役立つ会社になることを社会的使命と考えております。また、当社グループを取り巻くステークホルダー(利害関係者)の皆さまに対して、企業情報を正確かつ迅速に開示することがコーポレートガバナンス(企業統治)の有効な手段のひとつであると考えております。

ところで、「健康創造企業」の実現には、企業そのものがあらゆるステークホルダーの皆さまに対して「健康」でなければなりません。そのためには、従業員が健康であること、偽りのない健康な商品・サービス・情報を提供していること、企業の財務状態が健全であること、そして、工場・事業所周辺の皆さまと健全な関係にあること等が必要条件となります。

当社グループにおきましては、環境問題に対する取り組みは、企業が社会的責任を果たす上で重要な活動のひとつであると位置付けております。これまで工場におけるISO14001の認証取得をはじめ、環境負荷の低減に努めてまいりましたが、今後は全従業員の環境に対する意識の向上のため、環境教育の推進・充実に取り組んでまいります。

このたび、前期に引き続き、生産部門を中心とした環境保全活動の内容と実績を「2004環境報告書」としてまとめました。報告の回数を重ねるごとに内容の充実を図りたいと考えておりますので、皆さまからの忌憚のないご意見を賜れば幸いに存じます。

今後とも事業活動とあわせて、当社の環境に対する取り組みにご理解を賜りますようお願い申し上げます。



2004年8月

フジッコ株式会社 代表取締役社長

福井 ふー

お客さまとともに 新しい食文化を拓く
健康創造企業を目指します

< 環境基本理念 >

フジッコグループは、『お客さまとともに 新しい食文化を拓く 健康創造企業を目指します』の企業理念の下、健康という付加価値をもった商品をつくり出しております。

健康という付加価値をもつには、まず、素材と従業者が健康でなくてはなりません。そのためには、地球環境が健康であることが必要不可欠であります。近年、私たちの住む地球は、科学技術の発達と生活環境の変化によって汚染が進み、食品の安全性を含め生活環境の破滅を招く事態となっております。

ここに、食を通じて社会に役立ちたいと願うフジッコは各工場において環境に配慮した生産活動を行い、地球環境の改善ならびに地球環境への負荷軽減に資するよう、たえず努力することを誓います。

環境行動指針

- 1 事業活動にかかわる環境側面を常に配慮し、環境マネジメントシステムを構築することにより環境保全活動の継続的な向上を図ります。
- 2 食品工場の宿命として水の使用量が多いこともあり、水質汚濁防止のため工場排水を重点的に管理し、地域社会との共生を図ります。
- 3 主な消費エネルギーである電力や重油の節減に取り組むとともに、廃棄物の低減化、リサイクル、リユースにも努力します。
- 4 環境基本法を中心とした環境関連の法律・規制・協定を遵守するとともに国際環境規格を守ります。
- 5 環境目的、環境目標を設定し、毎年見直しを行って改善に努めます。

生産部門における環境側面の調査結果より、フジコグループ全体で取り組むべき環境管理活動を環境目的および環境目標として決めました。

環境目的

5カ年の中期目標を環境目的として定め、数値目標の達成に向けグループ全体で取り組んでおります。

1

水の使用量を削減する。

2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。

2

食品廃棄物の再生利用等を促進する。

2006年度までに、食品廃棄物の再生利用等の実施率を100%にする。¹

3

電力消費量を削減する。

2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。

4

石油系燃料(灯油・重油)の使用量を削減する。

2001年度を基準として、2006年度までに出荷重量対比で5%削減する。

¹「2003環境報告書」では、環境目的の2は「2006年度までに、(食品廃棄物の)再生利用等の実施率を20%にする。」としておりましたが、その後の調査で、すでに食品廃棄物の再生利用等の実施率が20%を上回っておりましたので、環境目的の見直しの結果、「2006年度までに、食品廃棄物の再生利用等の実施率を100%にする。」に改訂いたしました。

環境目標

2003年度の数値目標を環境目標として定め、その達成に向けグループ全体で取り組みました。

1

水の使用量を2002年度より、出荷重量対比で1%削減する。

2

食品廃棄物の再生利用等の実施率を50%にする。²

3

電力消費量を2002年度より、出荷重量対比で1%削減する。

4

石油系燃料(灯油・重油)の使用量を2002年度より、出荷重量対比で1%削減する。

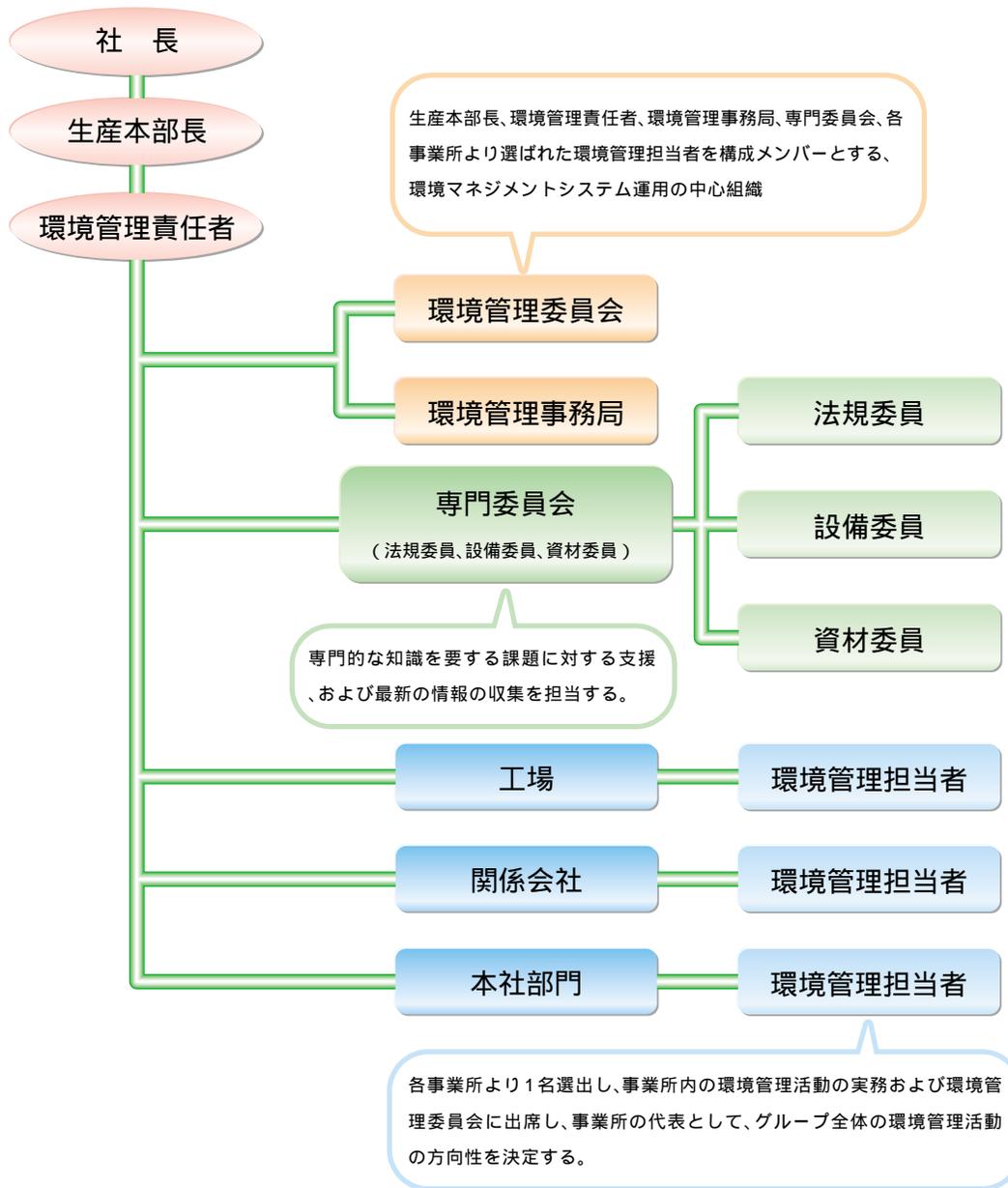
²「2003環境報告書」では、2003年度の環境目標の2は「食品廃棄物の再生利用等の実施率を5%にする。」としておりましたが、その後の調査で、すでに食品廃棄物の再生利用等の実施率が5%を上回っておりましたので、環境目標の2は「食品廃棄物の再生利用等の実施率を50%にする。」に変更いたしました。

フジッコグループとして、共通の理念に基づいた環境保全活動の継続的な向上を図るため、全社的な環境マネジメントシステムの構築を目指し活動しております。

環境マネジメント組織

全社的な環境マネジメントシステムの運用の取り組みとして、環境に与える影響が最も大きい生産部門を中心とする環境マネジメント組織で、環境マネジメントシステムを運用しております。

■ フジッコグループ 環境マネジメント組織



ISO14001 認証取得

地球環境の改善ならびに地球環境への負荷軽減のため、ISO14001規格に基づいた環境マネジメントシステムの構築を進めており、まず和田山工場、東京生産事業部でISO14001の認証取得に向けて取り組みを開始いたしました。その結果、2001年9月に煮豆・佃煮業界で初めて両工場にISO14001の認証を取得いたしました。

また、2002年には関係会社のフジコン食品(株)がISO14001の認証を取得いたしました。今後、この経験を他工場に展開し、グループ全体でISO14001の統合認証を取得できるよう環境マネジメントシステムの整備にあたってまいります。

認証取得工場

和田山工場

所在地 : 兵庫県朝来郡和田山町
 認証取得 : 2001年9月
 主な生産品 : 煮豆、塩吹昆布



東京生産事業部

所在地 : 千葉県船橋市
 認証取得 : 2001年9月
 主な生産品 : 佃煮、そう菜、納豆

フジコン食品株式会社

所在地 : 兵庫県美方郡浜坂町
 認証取得 : 2002年6月
 主な生産品 : 佃煮、とろろ、漬物



環境に対する意識の向上とフジッコの環境に対する考えを理解・浸透させるため、環境教育の充実に努めております。

■ 全体教育の実施

社員を対象に、ISO14001、食品リサイクル法、ごみの分別、節水、節電など、工場が直面している事項をテーマに取り上げ、教育を行っております。



■ 掲示板・ポスターの活用

環境への取り組みを積極的に行う風土をつくるため、掲示板・ポスターの活用により、社員に説明し、環境負荷低減への活動を推進しております。



■ 外部講習会への参加

環境に関する知識の取得と問題解決の手法を学習することを目的として、外部団体が主催する講習会に積極的に参加しております。そして、その成果を環境マネジメントシステムの運用に生かしております。また、ISO14001に関する通信教育の受講を推奨しております。2003年度は、3名が受講いたしました。

■ 2003年度の主な参加セミナー
主催:兵庫県食品産業センター

■ 環境問題に関する勉強会
主催:(株)大栄サービス

地域住民とのコミュニケーションと地域環境の美化の観点から、社会貢献活動の一環として、主に事業所周辺の清掃活動を実施しております。また、外部団体との共同活動にも積極的に参加し、地域環境の景観維持に努めております。2003年には、和田山工場におきまして、但馬環境保全連絡会より、環境保全の推進に貢献したとして表彰されました。

■ 船橋530(ゴミゼロ)の日への参加

2000年度より、年2回実施される船橋530(ゴミゼロ)の日に、東京生産事業部全体で参加し、周辺地域の景観維持に努めております。参加人数も、2000年は8名の参加でしたが、2003年度は129名と活動が活発になってきました。



■ 但馬5万人クリーン作戦への参加

年1回行われる但馬5万人クリーン作戦に、和田山工場全体で参加しております。工場周辺の清掃と雑草の除去を行い地域環境の維持に努めております。



■ 本社周辺の清掃活動

1991年に、本社を現在地に移転する以前から、毎朝輪番制で自主的に本社周辺の清掃活動を継続して行っております。



製造工程における環境負荷の概要

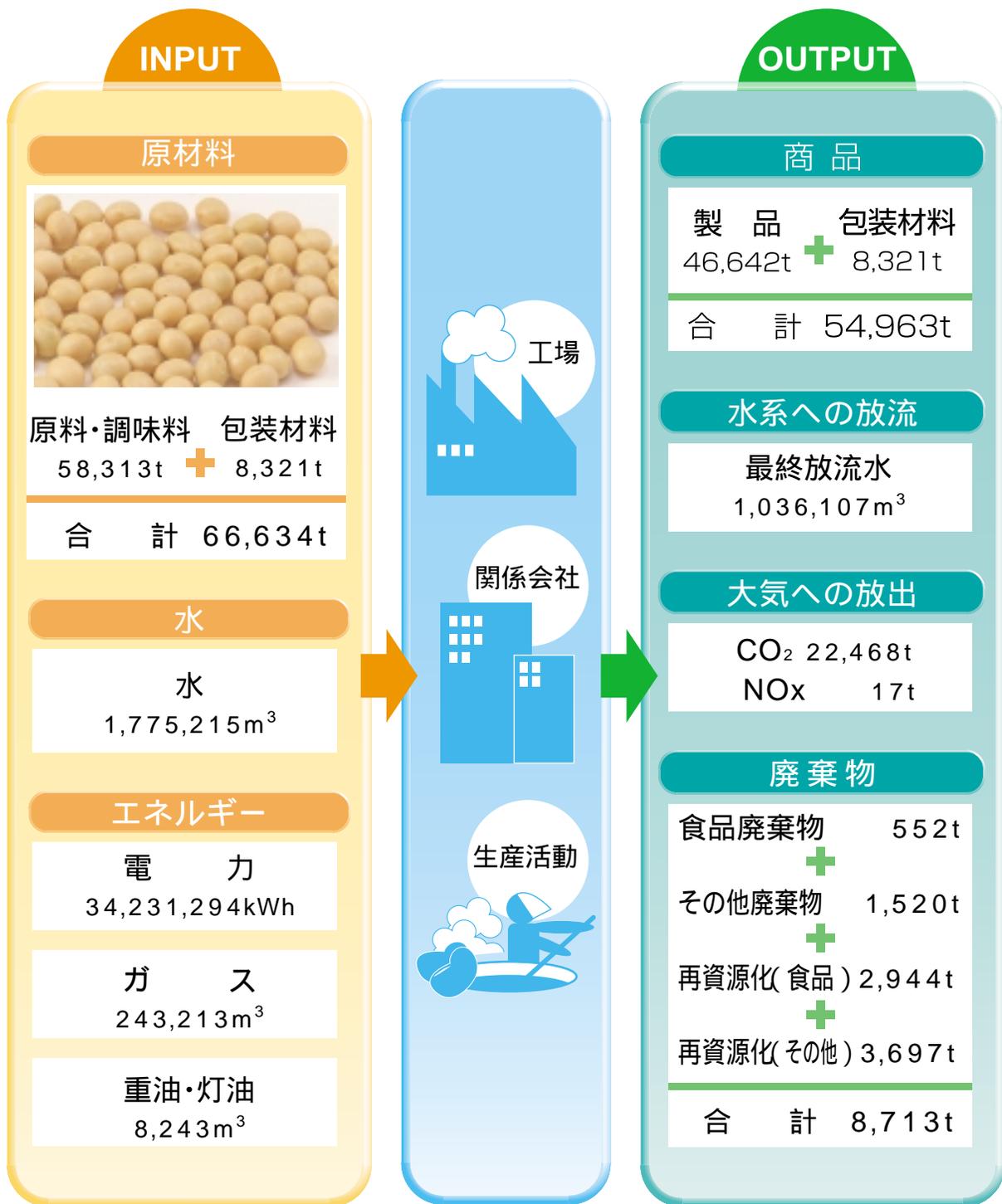
Overview of environmental impacts from the manufacturing process

下図は、2003年度のフジッコグループの生産工場における環境への負荷をフローの形で表したものです。

原材料と水、エネルギーがインプットされ、佃煮、煮豆等の製品が生産されます。

生産活動の結果、アウトプットとして、水系に排水、大気系にCO₂、NO_xが放出され、また廃棄物が排出されます。

今後も、生産活動にともなうインプット、アウトプットを把握し、環境負荷の低減に努力してまいります。



環境基本方針の精神に基づいて定めた、環境目的の達成のため、
2003年度の環境目標を設定し環境負荷の低減に取り組みました。

水使用量の削減

目標

水の使用量を前年より、
出荷重量対比で1%削減する



実績

前年対比 2.7%増加
未達成

達成状況

フジコン食品(株)では、漬物脱塩機にタイマーを設置し、水の使用量を制御しました。
グループ全体では、水使用量削減の取り組みが十分でなく、目標を達成することができませんでした。
西宮工場、和田山工場、東京生産事業部、
フジッコフーズ(株)において、前年より出荷重量対比で1%削減の目標を達成することができました。本社では、前年より絶対量で3.2%の削減となりました。

2004年度の取り組み計画

生産ラインの効率化をはかり、水の使用量の削減を行います。



事業所別の水の使用状況

2000年度から2003年度の事業所別の水の使用状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
西宮工場	29,721	31,352	20,273	17,592
鳴尾生産事業部	223,041	229,152	215,611	248,695
和田山工場	320,613	354,268	366,400	348,677
関東工場	382,055	332,517	321,833	348,715
東京生産事業部	140,399	175,756	213,896	235,426
フジコン食品	333,800	360,000	289,798	266,292
フジッコフーズ	185,028	192,526	263,006	271,550
フジッコワイナリー	24,292	21,687	27,856	28,693
本社	11,540	11,190	9,893	9,575
合計	1,650,489	1,708,448	1,728,566	1,775,215

単位[m³]

目標

食品廃棄物の再生利用等の
実施率を50%にする



実績

実施率 84.3%
達成

達成状況

和田山工場、関東工場、東京生産事業部、フジッコフーズ(株)、フジッコワイナリー(株)で発生した食品廃棄物を外部の専門業者に委託して肥料化・飼料化を行いました。食品廃棄物の再生利用等の実施率は、グループ全体で84.3%と目標を達成することができました。

食品リサイクル法の目標値である再生利用等の実施率20%を達成しております。

和田山工場、関東工場、東京生産事業部、フジッコフーズ(株)、フジッコワイナリー(株)において、再生利用等の実施率が50%を上回っております。

2004年度の取り組み計画

再生利用が行われていない工場については、再生利用の実施を開始します。

食品廃棄物の全体の量は、年々増加しておりますので、これを減少させる活動を行います。

再生利用等の実施率100%の達成に向けた活動を開始します。



事業所別の食品廃棄物の再生利用等の実施状況

2000年度から2003年度の事業所別の食品廃棄物の再生利用の実施状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
西宮工場	0	0	0	0
鳴尾生産事業部	0	44.83	20.14	2.48
★ 和田山工場	0	0	0	59.42
★ 関東工場	0	0	100.00	100.00
★ 東京生産事業部	20.00	53.99	65.01	88.45
フジコン食品	0	0	0	0
★ フジッコフーズ	0	0	0	100.00
★ フジッコワイナリー	0	31.06	46.24	78.18
合計	0.95	16.29	44.95	84.29

単位[%]

電力消費量の削減

目標

電力消費量を前年より、
出荷重量対比で1%削減する



実績

前年対比 1.3%削減
達成

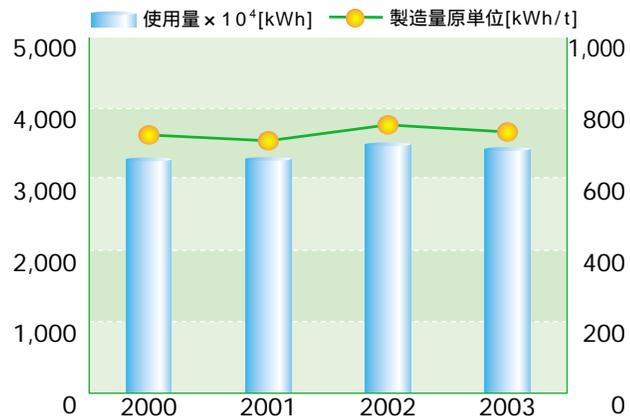
達成状況

節電への取り組み、エアコンなどへのタイマーの設置、間欠運転により、グループ全体で電力消費量を削減することができ、1%の削減目標(出荷重量対比)を達成することができました。

西宮工場、鳴尾生産事業部、東京生産事業部、フジッコフーズ(株)において、前年より出荷重量対比で1%削減の目標を達成することができました。本社では、前年より絶対量で1.9%の削減となりました。

2004年度の取り組み計画

生産ラインの効率化をはかり、電気の使用量の削減をさらに行います。
エアコンなどへのタイマーの設置、間欠運転をさらに進めていきます。



製造量原単位 = 使用量[kWh] / 製造量[t]

事業所別の電力の使用状況

2000年度から2003年度の事業所別の電力の使用状況は、下記のとおりであります。

工場・事業所	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
西宮工場	1,012,731	1,272,937	1,237,642	1,023,093
鳴尾生産事業部	6,439,150	6,667,949	6,658,420	6,427,500
和田山工場	6,691,621	6,506,504	6,182,700	6,110,740
関東工場	5,769,960	5,918,058	6,105,360	6,211,584
東京生産事業部	3,362,615	4,309,466	4,872,315	5,122,463
フジコン食品	3,133,260	3,109,720	2,985,970	2,767,750
フジッコフーズ	3,838,784	3,822,864	4,439,004	4,428,854
フジッコワイナリー	983,688	953,058	963,282	934,020
本社	1,459,571	1,296,183	1,228,030	1,205,290
合計	32,691,380	33,856,739	34,672,723	34,231,294

単位[kWh]

石油系燃料使用量の削減

目標

灯油・重油の使用量を前年より、
出荷重量対比で1%削減する



実績

前年対比 2.0%増加
未達成

達成状況

蒸気供給設備において、炉筒煙管ボイラーから高効率で運転制御が容易な貫流ボイラーに変更を進め、石油系燃料の使用量を低減させております。2003年度は、フジコン食品㈱で貫流ボイラーに更新し、グループ全ての工場で貫流ボイラーに変更いたしました。(P.14参照)

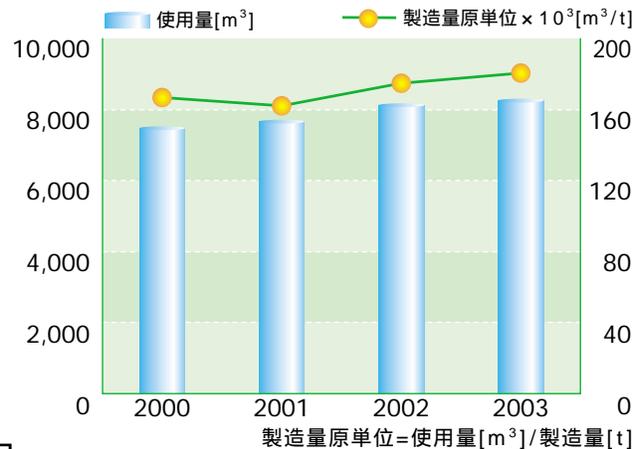
関東工場、フジコン食品㈱では、石油系燃料の削減に対する取り組みが十分でなく、目標を達成することができませんでした。

西宮工場、鳴尾生産事業部、和田山工場、フジッコフーズ㈱において、前年より出荷重量対比で1%削減の目標を達成することができました。



関東工場で、コージェネレーションの運転を開始し、その廃熱利用に取り組みます。(P.14参照)

蒸気の廃熱回収の効率化を検討します。
複数のボイラーの台数制御や脱酸素装置の設置などを行うことにより、効率的なボイラーの運転条件を検討します。



事業所別の石油系燃料の使用状況

2000年度から2003年度の事業所別の石油系燃料の使用状況は、下記のとおりであります。

注) 本社および東京生産事業部では、石油系燃料を購入しておりません。

工場・事業所	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
西宮工場	98	135	139	122
鳴尾生産事業部	2,166	2,111	2,192	2,010
和田山工場	2,401	2,306	2,296	2,204
関東工場	1,858	1,830	1,780	1,914
東京生産事業部	-	-	-	-
フジコン食品	319	314	306	387
フジッコフーズ	599	864	1,193	1,448
フジッコワイナリー	138	148	168	159
本社	-	-	-	-
合計	7,582	7,710	8,074	8,243

単位[m³]

■ コージェネレーションシステム導入 (関東工場)



関東工場では、コージェネレーションシステムを導入いたしました。導入した設備は、重油を燃料とするエンジンを廻して発電を行う一方、運転中に排出される廃熱を利用し、廃熱ボイラーの運転を行っております。これにより、エネルギーの有効利用、CO₂排出量の削減に寄与しております。引き続き、他工場への展開を検討してまいります。

■ 嫌気性排水処理設備導入 (フジコン食品㈱)

フジコン食品㈱では、排水処理能力の増強を行うため、嫌気性排水処理設備の導入を行いました。本設備の導入により、汚泥発生量と電力使用量の抑制が行われ、環境への負荷低減に寄与しております。これにより、西宮工場・フジッコワイナリー㈱を除く全工場に嫌気性排水処理設備の導入が完了いたしました。



■ フジッコグループ全工場で貫流ボイラーに更新完了

2003年7月に、フジコン食品㈱の炉筒煙管ボイラーを高効率で運転制御が容易な貫流ボイラーに更新いたしました。これにより、フジッコグループ全ての工場において、貫流ボイラーへの更新が完了し、重油使用量の低減に寄与しております。引き続き、複数のボイラーの台数制御や脱酸素装置の設置などを行うことにより、効率的なボイラーの運転条件の検討を行ってまいります。

フジッコグループでは、環境汚染物質による環境への悪影響を防止するため、次のような取り組みを行っております。

環境汚染物質の管理

■ 焼却炉の廃止

小型焼却炉を使用してゴミを焼却した場合、健康に悪影響を及ぼすダイオキシンが発生する恐れがあります。そこで、小型焼却炉の廃止に取り組んできた結果、2001年度に全ての工場の小型焼却炉を廃止いたしました。

(鳴尾生産事業部、東京生産事業部は、工場稼動時より小型焼却炉を設置しておりません。)

■ 排水の管理

工場からの排水は、全工場で排水処理施設により処理し、定期的に検査を行っております。また、より省エネルギーで運転でき、余剰汚泥の減少ができる嫌気性排水処理施設を関東工場、鳴尾生産事業部、和田山工場、東京生産事業部、フジコン食品(株)(P.14参照)、フジッコフーズ(株)に導入しております。

■ 危険物・薬剤の管理

危険物・薬剤は、「危険物管理手順書」「薬剤管理手順書」で管理し、定期的に点検を行っております。また、万が一の事故に備えて、「緊急事態対応手順書」を作成し運用しております。

■ アイドリングストップ運動

資材および商品の物流業者への呼びかけや、アイドリングストップ看板を設置し、場内での自動車のアイドリングストップ活動を展開しております。



事業所近隣の方からのご指摘について

各事業所では、環境に配慮した生産を行うよう努めておりますが、事業所近隣の方より、事業所内で気がつかないような環境影響について、ご指摘を受けることがございます。

このような近隣の方からのご指摘について、ひとつひとつ改善していくことで、より精度の高い環境管理を行っていきたいと考えております。

過去3年間(2001～2003年度)の、近隣の方からの環境に関するご指摘は、以下の通りです。なお、その後、同様のご指摘はございません。

ご指摘内容	年度	事業所	対策
食堂のエアコン室外機の熱風と騒音で、家の窓が開けられない。	2001	西宮工場	エアコン室外機の移設を行った。
汚泥乾燥時の水蒸気の臭気	2002	和田山工場	汚泥の乾燥に使用する「ドライヤー運転手順書」を作成し、常に水蒸気や臭気の少ない運転をできるようにした。
早朝のアイドリングの音	2002	和田山工場	従業員への教育と、夜間・早朝は民家に近い構内への駐車を禁止した。
フォークリフトの警告音	2002	西宮工場	警告音を消音した。
工場の植木の枝が近隣住宅の敷地内に入っている	2002	西宮工場	植木の剪定を行った。
TVケーブルが近隣敷地内に入っている	2002	西宮工場	TVケーブルの移設を行った。
排出水の基準違反(行政より)	2002	フジコン食	佃煮煮熱時のふきこぼれが原因で、ふきこぼれをなくした。(その後、排水処理施設の能力を増強した。)
排出水の基準違反(行政より)	2002	フジッコー	排水処理施設の増設を行った。
排出水の水量変動に対する連絡の不備	2002	フジッコー	生産数量が増加する場合、行政に対して事前連絡を行うようにした。(その後、排水処理施設の能力を増強させ、処理水を直接河川に放出している。)
アイドリングの音	2003	西宮工場	アイドリングストップ看板を設置し、関連運送会社にも通達を出した。
工場外部排水用水側溝より水漏れが発生している。	2003	フジッコーワイナリー	側溝の補修工事を行った。
排水処理場の配管の腐食による隣接工場への排水の流出	2003	鳴尾生産事業部	排水処理場の配管の材質を鉄製からステンレス製に変更し、破損が生じないように補修した。
工事の騒音	2003	和田山工場	近隣へ影響が出ると想定される工事を実施する場合は、事前に防止策を行い、近隣の方々に連絡を行うようにした。

環境保全に関する取り組みの歴史

History of our efforts to protect the environment

1960	神戸市東灘区にて(株)富士昆布創業
1985	(株)富士昆布から現社名フジッコ株式会社へ社名変更 創業25周年を記念、全国に緑の松を植樹「フジッコ松」寄贈活動を開始
1994	フジッコワイナリー(株) 排水処理の汚泥を肥料として出荷開始 関東工場 食品廃棄物の一部を外部にて肥料化
1996	関東工場 嫌気性排水処理施設導入
1997	鳴尾生産事業部 嫌気性排水処理施設導入
1998	和田山工場 嫌気性排水処理施設導入 フジッコワイナリー(株) 焼却炉廃止
1999	和田山工場 焼却炉廃止
2000	環境問題プロジェクトチーム設置
2001	和田山工場 ISO14001認証取得 東京生産事業部 ISO14001認証取得 東京生産事業部 嫌気性排水処理施設導入 関東工場 焼却炉廃止 東京生産事業部 食品廃棄物の全量を外部にて肥料化 フジッコワイナリー(株) 糖廃液を肥料の発酵促進剤として出荷開始 フジコン食品(株) 焼却炉廃止 本社環境問題委員会設置
2002	フジコン食品(株) ISO14001認証取得 フジッコフーズ(株) 嫌気性排水処理施設導入 生産本部 環境管理委員会設置
2003	フジコン食品(株) 嫌気性排水処理施設導入 「2003環境報告書」発行 和田山工場 食品廃棄物を外部にて100%肥料化

■ 2003年度に新たに取組んだこと

- フジッコグループの環境保全活動の内容と実績を「2003環境報告書」として取りまとめ、初めて発行いたしました。
- 関東工場に、コージェネレーション設備を設置いたしました。



2004年度の環境目標



2003年度は、水の使用量の削減、食品廃棄物の再生利用率の向上、電力消費量および石油系燃料の使用量の減少に取り組んできた結果、水および石油系燃料の使用量の削減は達成できませんでしたが、食品廃棄物の再生利用率の向上、電力消費量の削減については、目標を達成することができました。

環境目的の達成のため、2004年度も引き続き、水の使用量の削減、食品廃棄物の減少、電力消費量および石油系燃料の使用量の減少に継続して取り組み、目標を達成するよう努めてまいります。

1

水の使用量を2003年度より、出荷重量対比で1%削減する。

2

食品廃棄物の再生利用等の実施率を90%にする。

3

電力消費量を2003年度より、出荷重量対比で1%削減する。

4

石油系燃料(灯油・重油)の使用量を2003年度より、出荷重量対比で1%削減する。



2004年度の行動計画



2003年度は、ISO14001規格に基づいた全社共通の環境マネジメントシステムの構築を目指し、活動を開始いたしましたが、まだ十分なしくみを構築するにはいたっておりません。

2004年度は、全社共通の認識で運用できる環境マネジメントシステムの構築のための活動をさらに進めてまいります。

1

法規制遵守の確認を確実にできるしくみづくりを行う。

2

社員への教育・訓練のしくみづくりを行う。

3

環境マネジメントプログラムを推進する。

次回(2004年度版)の環境報告書は、2005年8月の発行予定です。



問合せ先
〒650-8558 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4
フジッコ株式会社 経営企画室 TEL078-303-5921

